

(様式6)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成21年2月9日

【評価実施概要】

事業所番号	2871300451		
法人名	特別医療法人 敬愛会		
事業所名	ひかみシルバーホーム		
所在地	丹波市氷上町絹山1 (電話) 0795-80-2777		
評価機関名	社会福祉法人 兵庫県社会福祉協議会		
所在地	神戸市中央区坂口通2-1-18		
訪問調査日	平成20年12月25日	評価確定日	平成21年2月9日

【情報提供票より】(平成20年11月18日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成12年6月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 7人, 非常勤 2人, 常勤換算	8.3人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	1 階建ての	1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	46,000 円	その他の経費(月額)	15,210 円
敷金	有 (円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	210 円	昼食 315 円
	夕食	365 円	おやつ 円
	または1日当たり 890 円		

(4) 利用者の概要(11月18日現在)

利用者人数	9 名	男性 2 名	女性 7 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名
要介護3	3 名	要介護4	0 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 87.2 歳	最低 79 歳	最高 94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大塚病院 佐竹歯科医院
---------	-------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

ひかみシルバーホームは、特別医療法人敬愛会が運営するグループホームの一つである。大塚病院(救急医療から療養看護まで地域密着型医療を推進している病院)の敷地内にあり、最大限の医療支援を受けることができ、利用者・家族にとって安心して暮らせるホームである。ホームには地域の利用者が多く、家族の訪問も頻繁にあり、自宅で暮らし続ける感覚で日々生活している。利用者一人ひとりの自主性を重んじ、利用者を人生の大先輩として尊敬し、心のこもった支援を実践している。特に、地域との交流を大切にし、保育園・小学校はもとより、自治会主催の行事にはすべて招待され、その行事に積極的に参加し、地域の一員として認識されている。管理者はグループホームの独自性を出していきたいという思いを持っているので、その取り組みに期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4) 前回評価の課題については全職員と話し合い、改善に向けて取り組んでいる。食事を楽しむことのできる支援については、管理栄養士が一人ひとりの利用者の好みを聞いたり、利用者が調理する楽しみの時間を週1回作るなど改善に取り組んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4) 第三者評価を実施する意義を十分理解し、全職員が自己評価を行い、表出した課題は改善に向けて具体策を検討し、実践につなげる取り組みを行っている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6) 運営推進会議には、市職員・自治会長・家族代表・併設病院職員等様々な人が参加して、3ヵ月に1回開催している。検討事項や懸案事項について充分話し合いを行っているが、利用者本人が参加するまでには至っていない。運営推進会議に利用者の参加も計画しているということなので、その実現に期待したい。また、より外部の意見を取り入れられるよう概ね2ヵ月に1回以上運営推進会議を開催することが期待される。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8) 家族の面会時に利用者の近況を報告している。また、2ヵ月に1回、グループホームでの暮らしぶりや利用者のエピソード等をホーム便りとして送付している。家族には、何でも言ってもらえる雰囲気作りを行い、家族会も開催しているが、家族からの要望や苦情は出ていない。利用者家族がより意見を伝えやすくするためにも、併設病院だけではなく、ホーム内にも意見箱を設置することが望まれる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3) 地域の自治会が協力的で、文化祭・運動会等すべての行事に招待され、積極的に参加している。また、小学校・幼稚園とのふれあい体験が、利用者にとって地域で暮らすことを実感できる取り組みとなっている。

2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム独自の理念は作成しているが、グループホームが地域密着型サービスに位置付けられてから、理念の見直しはしていない。	○	グループホームが地域密着型サービスとして位置づけられ、地域住民との関係が重視されるようになったことに伴い、地域密着型としての理念の作成を検討しているので、その実現に期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は理念を暗記しており、サービス提供場面でも十分反映されている。理念の中身についてももっと掘り下げることを管理者・職員全体で話し合い、理念がより実践的なものとなるよう変更を検討している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会が協力的で、文化祭・運動会等すべての行事に招待され、積極的に参加している。また、小学校・幼稚園とのふれあい体験が、利用者にとって地域で暮らすことを実感できる取り組みとなっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	第三者評価を実施する意義を十分理解し、全職員が自己評価を行い、表出した課題は改善に向けて具体策を検討し、実践につなげる取り組みを行っている。		

第三者	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、市職員・自治会長・家族代表・併設病院職員等様々な人が参加して、3ヵ月に1回開催している。検討事項や懸案事項について充分話し合いを行っているが、利用者本人が参加するまでには至っていない。	○	運営推進会議に利用者の参加も計画しているということなので、その実現に期待したい。また、より外部の意見を取り入れられるよう概ね2ヵ月に1回以上運営推進会議を開催することが期待される。
6	9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者と連携を密にし、市担当者がホームを訪れた際に、ホームの運営や現場の実情を伝える機会としている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームの近くに居住していた利用者が多く入居しており、家族の面会時に利用者の近況を報告している。また、2ヵ月に1回、グループホームでの暮らしぶりや利用者のエピソード等をホーム便りとして送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には、何でも言ってもらえる雰囲気作りを行い、家族会も開催しているが、家族からの要望や苦情は出ていない。意見箱は併設病院に設置しているが、グループホームには設置していない。	○	利用者家族がより意見を伝えやすくするためにも、併設病院だけではなく、ホーム内にも意見箱を設置することが望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の施設間で、職員の定期異動が行われている。異動による利用者へのダメージを防ぐため、利用者が新しい職員に馴染むまで引き継ぎの時間を十分取るよう配慮している。		

第三者	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	併設病院内での研修機会は多く、資格を得るための外部研修は設けているが、パート職員が参加するまでには至っていない。自己研鑽のために、個人的に研修に参加している職員もいる。研修記録は法人内で保管し、いつでも研修内容が確認できるようにしている。	○	パート職員も含め職員全体のサービスの質の向上を図るためにも、研修成果の共有や外部研修への参加の機会を増やすことが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	丹波市内の4つのグループホームでネットワーク会議を開催している。定期的に会議を開催し、事例検討等を通して体験や意見の情報交換を行い、サービスの質の向上を目指している。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居時、家族から生活歴等の情報を聞いて記録し、支援につなげている。入居を望まない利用者に対しては、その人が安心と納得されてから利用を開始するようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	職員・利用者それぞれに得意なことがあり、それらを教えたり、教えられたりしている。野菜作りも利用者・職員で行うなど、和やかな場面作りをし、お互いに支えあう関係を築いている。		

第三者	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向の把握が困難な利用者には、表情や行動から把握し、利用者の思いを大切にすると共に、待つケアの実践をしている。		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○ チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の担当職員を決め、家族や関係者等の気付きや意見を反映させるなど、本人本位の介護計画を作成している。		
16	37	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは3ヵ月に1回行い、利用者の状況や状態に変化があれば、柔軟に対応し、その都度検討・見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○ 事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者・家族が通院送迎を求める場合や特別な外出等に対し、柔軟に支援している。設立時より、空居室がある場合には、ショートステイを受け入れている。		

第三者	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	すべての利用者のかかりつけ医は併設病院の医師である。定期受診を月1回行い、結果は利用者・家族にも伝え、利用者の健康状態の情報の共有を十分行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、重度化した場合や終末期のあり方について利用者の意向を尋ね、家族が納得するまでホーム方針について話し合っている。併設病院と連携を取りながら、対応し得る最善のケアを心掛けている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は人生の先輩である利用者を尊敬し、プライバシーを損ねないように丁寧な言葉遣いで対応している。また、プライバシーの確保を徹底するため、ホーム便りの発行の際には、利用者の了解を得てから利用者について記載するようにしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員がアイディアを出し合い、利用者のペースで心地よい時間を楽しめるよう、細かい決め事はせず、利用者の希望に沿うよう支援している。		

第三者	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	法人の方針で、併設病院から三食共届けられ、利用者・職員が盛り付け・片づけ等をし、職員も同じ食卓を囲んでいる。朝食はパンかご飯かを選ぶ選択メニューになっている。月に1回管理栄養士が利用者の好みを聞き取り、週に1回利用者と調理やおやつ作りを行っている。	○	利用者にとって食事の時間がより楽しみになるよう、ホームとしては利用者と共に調理できる機会を増やしていきたいと思があるので、その実現に期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回(月・水・金)の入浴日を設定し、利用者が希望する場合には、個別入浴の支援をしている。入浴を拒む利用者には、言葉かけを工夫し、時間を掛けて入浴ができるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は編み物・習字・ピアノ等を行うなど、職員はそれぞれの趣味を楽しめるよう支援している。また、畑仕事を行う等の役割を持たれている利用者もいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気軽に出ていける場所へ外出する機会は増えているが、一人ひとりの希望にそった外出支援は難しい状況にある。	○	今後、個別の外出支援を増やしていきたいというホームの考えもあるので、利用者一人ひとりの希望にそった外出支援の方法の検討を期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関はもちろん、すべての出入口のドアは施錠していない。夜間は安全上施錠している。全ての職員が鍵をかけずに暮らすことの大切さを認識している。		

第三者	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	年2回消防署の協力を得て、併設病院と一緒に避難訓練等を実施している。地元の消防団とも連携が取れており、協力が得られる環境にある。また、非常用食料・備品等は併設病院で管理している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月に1回管理栄養士による栄養指導が行われている。一人ひとりの健康状態を把握できるようチェック表を用いて、食事量・水分量・入浴・運動・睡眠等を記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの季節感のある飾り付けは利用者と一緒にやっている。共有の畳の間にはホームゴタツを設置し、要所には、ソファや椅子が配置されており、利用者は昼寝をしたり、雑談したり、居心地よい場所となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居に際して、持ち込むものに制限はなく、利用者は好みや馴染みのものを持ち込むことができる。利用者は仏壇・位牌等大切なものを傍に置くことができ、安心して過ごせる居室となっている。		



は、重点項目。